



Pick Up News

夏休みも折り返しを迎え、皆さんそれぞれの時間をどのように過ごしているのでしょうか。旅行に出かけたり、実家でのんびり過ごしたり、友人と語らったり、日々の忙しさから少し離れ、自分らしい時間を楽しんでいることと思います。一方で、研究や設計課題に取り組んだり、企業インターンシップやオープンデスクに参加したりと、進路を見据えて一歩を踏み出している人も多いことでしょう。こうした取り組みは、学びを深めるだけでなく、自分の適性や将来像を具体的に描くきっかけとなり、秋以降の成長にも大きくつながります。普段はなかなかできない新しい挑戦に取り組んだり、読書や展覧会などで感性を磨いたりすることも、大学生活をより豊かにする貴重な経験となります。どのような過ごし方であっても、大学生の夏休みはかけがえのない大切な時間です。その価値を深く実感するのは、きっと卒業して社会に出てからのことかもしれません。夏休みも残すところ約3週間。心と体をしっかりリフレッシュさせるとともに、小さな目標でもよいので何か一つ達成感を味わえるような過ごし方を心がけ、後期に良いスタートが切れるよう、この時間をぜひ有意義に使ってください。

大学院特集：「学び」を、もっと自由に。未来をひらく大学院進学～学部卒業後の進路／在学生の声～

今月と来月号は「大学院特集」！今年度も定員を大きく上回る21名が建築学専攻に進学し、大学院はますます活気づいています。ここ数年、大学院への進学希望者がじわじわと増加中。その背景には何があるのでしょうか。「もっと深く学びたい」、「社会に出る前に自分の専門性を高めたい」・・・。そんな思いを胸に進学を決めた学生たちの「リアルな声」を通じて、進学という選択肢の意味を探ります。建築をもっと追求したいあなたへ。未来のヒントがここにあるかもしれません。

質問事項1. 大学院を志した理由 / 2. 進学を決めた時期 / 3. 大学院で学んでの感想 / 4. 学部生へのメッセージ

① 千葉 光輝 (M1)

1. 建築に関する専門的な知識をより一層深めることに加え、研究室の活動や課外活動を通して学部卒業の自分よりも成長したいと思ったため。
2. 学部3年の10月頃
3. 大学院に入学してから今までの振り返ると、大学院に進学したからこそその学びや経験しか無かったように思います。今後さらに高みを目指して頑張ります。
4. 大学院への進学は珍しいことではないと思います。進学を少しでも考えている場合はぜひ前向きに考えてほしいです。

② 塙 龍也 (M2)

1. 学部だけでは満足できなかったから。
2. 高校2年生
3. 自分のやりたいことができる環境が整っており、毎日楽しく研究している。
4. 大学院でしか学べないことや経験できないことも多くあります。少しでも興味があるならば、進学も候補のひとつとしてぜひ考えていただきたい。

④ 佐藤 朋香 (M1)

1. 設計職を目指すため。大学院に進み、建築の考え方を深く学びたくなったため。
2. 大学4年生の9月
3. 少人数での講義は教授の専門性のある学びが得られます。また、院生同士で建築のコンペに挑戦することで思考力が得られたと思います。
4. 大学院は学部の延長ではなく、自分の学びたい分野を探究したり、やりたいことを挑戦してみることができる期間でもあると考えています。大学生の時に自分が感じている建築の面白みや疑問を深く考えることができる時間かもしれないです。大学院も充実した楽しい時間をすごせます。

③ 本居 真緒 (M2)

1. 大学院への進学率が年々高まっていることに加えて、学部での研究活動を通じ、自分で研究テーマを設定して資料を集めたり、実験を行ってデータとしてまとめたりする過程がとても楽しいと感じました。もっと深く学びたい、研究を続けたいという思いが強くなり、大学院への進学を志しました。
2. 大学1年生の頃から将来的には大学院に進学することも選択肢として考えていました。実際に進学を決めたのは大学2年生の終わり頃です。
3. 研究室では、仲間と一緒に試行錯誤しながら研究を進める日々が続いています。うまくいかないこともあります。意見を出し合い、協力しながら課題を乗り越えていく過程がとても楽しく、充実した時間を過ごしています。
4. 大学院に進学するにあたって、現在の成績や進学の明確な理由などをあまり深く気にする必要はありません。「もっと学びたい」「研究を続けてみたい」と考えている人を受け入れてくれる環境が大学院にはあります。すでに就職を考えている人も、選択肢のひとつとして大学院進学を頭の片隅に置いておくと、将来の可能性がより広がると思います。

Pick Up Lab.

船木研究室では、液体が高速で流れる際に発生する力を利用して建物の揺れをコントロールする、全く新しいタイプの制震装置を開発しています。液体が高速で流れることにより生じる「慣性質量効果」が、建物の地震応答を効率的に低減できるか、実験や解析で検証しています。

また、進化系あと施工アンカーの開発も併せて行っています。あと施工アンカーは、建物の補強や設備取り付けに欠かせない部材ですが、見えない部分だからこそ“気づきにくい劣化”が問題になります。そこで私たちは、「そろそろ危ないかも？」とアンカー自身が発信してくれる“自己発信型アンカー”の実用化を目指しています。



振動台実験の様子



アンカーの実験の様子

Pick Up Student

私が工大に入学してから1年半が経ちました。高校生の頃参加したオープンキャンパスから現在まで建築への興味は高まり続けています。建築を学びながらその幅広さに驚き、難しさを実感する毎日です。私は普通科高校出身のため建築について何一つ知らない状態で工大に入学しました。分からないことだらけですが、友人にも助けられながら課題を乗り越えることができています。その中に楽しさや、やりがいを感じることもあり将来のために今できることを一生懸命やりたいと考えています。長期休暇で資格の勉強をするなど、色々な挑戦をしたいと思っています。大学での貴重な時間や体験、学びを無駄にせず将来に繋げていければ良いと考えています。



2年 渡邊 響介さん
仙台高校 出身

Pick Up Student

入学から4ヶ月が経ちました。入学当初は知らない人、知らない環境に囲まれ不安でいっぱいでしたが、建築ワークショップや授業内でのグループ活動を通して徐々に打ち解けることができ、友達と楽しい毎日を送ることができて安心しています。授業では、前期は普通科目と建築科目の基礎的なことを学びました。特に製図では平面図、立断面図の書き方や図面の見方などを学びました。私は高校でも建築について学んできたので前期で新しく学んだことは少なかったですが、後期ではさらに建築の専門的なことについて深く学べることにわくわくしています。また、前期ではあまり家で勉強する事が無かったので後期では家で勉強する習慣をつけて、積極的に学んでいきたいです。



1年 富士 結さん
盛岡工業高校 出身